

VRで「ディスコ狂言」

「東京ゲームショー2019」で「やまびこ狂言アフロ」を紹介するソフトウェア開発会社代表取締役の山崎吾郎さん(右)と女優の江林智施さん(左)＝千葉県の幕張メッセ



80年代サウンドに合わせ「そろりそろり」

80年代ディスコサウンドに乗って、狂言体験してみない?。ソフトウェア開発の「プロディジ」(本社・東京都、山崎吾郎代表取締役)は、VR(仮想現実)リズムゲーム「やまびこ狂言アフロ」を「東京ゲームショー2019」で発表した。振り付けやせりふは劇団前進座(東京都)が監修。山崎さんの大分大付属中の同級生で、劇団の女優江林智施さんが協力。ノリノリの「同級生コラボ」が実現した。

ソフト会社代表と劇団女優
大分大付属中同窓生コラボ

ゲームショーで発表

化する。「そろりそろり」「ぴーひよろひよろ」など狂言特有の言い回しは、ゲームになじみのない高齢者も楽しめそう。

ディスコのフロアで実際に踊っているような臨場感が魅力。DJと客が掛け合う「コール&レスポンス(やまびこ)」のように、テンポ良くせりふを繰り返して、大きく動いて楽しむのが高得点を挙げるコツだ。

山崎さんは「ノリのよい音楽と日本の伝統芸能を融合させたゲーム。大きな声を出して体を動かすので健康にもいい」、江林さんは「狂言だけでなく、歌舞伎やテレビでおなじみのせりふもアレンジして加えた。プレイヤーはもちろん、見ている人も楽しめるのは」とPRしている。

実用化、製音化に向けて、ゲーム会社や老人保健施設などに売り込んでいくという。同社大分支社(大分市寿町)で相談や体験も受け付ける。問い合わせはプロディジ(☎03・32257・8608)。

ゲームはVRゴーグルと両手用センサーを装着したプレイヤーが、画面に登場する狂言師の動きとせりふをまねて「再現率」を数値

(東京支社・逆瀬川由夏)